

なふくさみによって極大化させていたのだ。1625年頃、その当時手に入る全ての球根。さうして12ヶ国に存在していたアムステルダム人の男は、わが家の1個の球根のために3000ギルダーの申し出を受けたのである。3000ギルダーは現代のお金でいくらに相当するのかは正確には言えない。しかしそれは高額でおそらく、おおよそ20万ドルに相当するであろう。有名な画家レンブラントの夜景を書いたときおおよそその半分の額を支払われたのだ。

しかも、1個のチューリップの球根が株票2枚の価値があったのである。球根の所有者はもっと価値があると思ったのである。彼は売るのを拒んだ。

⑦ それはさうして彼は正しいことをしたのである。というのは、1630年代を通じてチューリップの価格は上がったのだ。1633年、一軒の農家と3個のめがらしの球根が交換された。そしてさらに価格は上がった。あるアムステルダム人で、500ギルダーというかなりの年収がある人が球根を買って値段が上がった瞬間に再び売って4ヶ月で6万ギルダーのせいであったのである。彼は自分が売った球根の大半をおおよそ決して見たことさえもなかったのだ。

⑧ センヤルアウグストゥス球根1個の値段は1625年の3000ギルダーから1633年の5000ギルダー、そして1636年には10000ギルダーまで上がったのである。その当時10000ギルダーあれば、アムステルダムの運河の近くに豪邸を買えるほどだったのだ。

⑨ 1636年と37年の初頭、70個の上等のチューリップの競売が行われた。これはある父親が7人の子供たちに残した全財産だったのである。20に届かぬほどの1個のめがらしの球根は5200ギルダーで売れた。全部のチューリップは7人の幸運な子供たちにおおよそ52000ギルダーを分けた。

⑩ しかし、この直後、バブルがはじけた。しかしで行われた小エネボグシユで、おおよそ金額を遡んでおおよそおおよそおおよそという事態が突然起きてしまったのである。チューリップの販売業者はチューリップが

10000の海が園中に広まった